

重大な事故防止に向けた安全対策

【 6 ソフトテニス 】

1 競技特性

ソフトテニスは、ネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを使ってボールを打ち合っポイントを競うスポーツで、自分のコートに飛んできたボールをノーバウンド(コートに一度もつかない状態)か、ワンバウンド(コートに一度だけついた状態)で返球する。試合にはダブルスとシングルスがあり、対戦方法としては個人戦と団体戦がある。試合は、7ゲームマッチ(4ゲーム先取)か9ゲームマッチ(5ゲーム先取)で行われるのが一般的で、1ゲームは4ポイント先取。ただし、ファイナルゲームだけは7ポイント先取で行う。

ネットを挟んでプレーするため身体の接触は少なく、ボールはゴム製であるため、大きな事故はこれまでにない。しかし、ラケットや打球が当たること、選手同士の衝突、施設の整備不良による転倒などによる打撲や骨折などがある。また、屋外での競技のため、熱中症や落雷による重大な事故には特に注意が必要である。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> テニスコートの整備不足による衝突・転倒 コート整備用ローラーの巻き込み事故 	<ul style="list-style-type: none"> 擦過傷 捻挫 打撲 骨折 打撲 骨折 	<ul style="list-style-type: none"> ブラシやローラーでコートの凹凸をなく ラインテープを正しく貼る。 ネット、審判台、ベンチを正しく設置す ローラーの破損等を点検する。 顧問の管理下において、正しい使用をす

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ラケット・ボールが当たる。 選手同士が衝突 	<ul style="list-style-type: none"> 打撲 骨折 歯牙破折、脱臼 捻挫 打撲 骨折 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲と適切な距離をとる。 選手同士で声を掛け合う。 周囲の状況を確認し、コート内に入る。 周囲と適切な距離をとる。 選手同士で声を掛け合う。 周囲の状況を確認し、コート内に入る。

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 炎天下における長時間のプレー 荒天による落雷 Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症 心肺停止 電撃傷 	<ul style="list-style-type: none"> 水分補給や休息の時間をとる。 部屋を確保する。 天気予報を確認し、天候状況を把握する。 待避場所・施設を確保する。 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

日本ソフトテニス連盟ホームページ(<http://www.jsta.or.jp/>)

安全確認チェックリスト

【 6 ソフトテニス 】

競技会名	
期 日	平成 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設・設備・用具	コートは整備され、凹凸はないか	
	ラインテープや釘がコートから浮いていないか	
	ネットの破損はないか	
	ネットは正しく設置されているか	
	審判台の破損はないか	
	審判台は正しく設置されているか	
	ベンチの破損はないか	
	ベンチは正しく設置されているか	
	ローラーの破損はないか	
AEDの設置場所は確認したか		
活動内容	コートブラシはかけているか	
	ローラーをかける際、正しく引いているか	
	周囲と適切な距離をとっているか	
	選手同士で声を掛け合っているか	
	周囲の状況を確認し、コート内に入っているか	
環境条件等	天気予報を確認し、天候状況を把握しているか	
	荒天時の待避場所・施設を確保したか	
	熱中症対策はとれているか	
発令時対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)